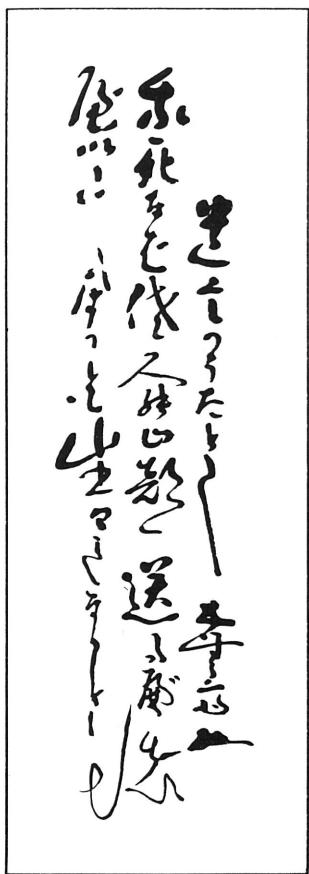
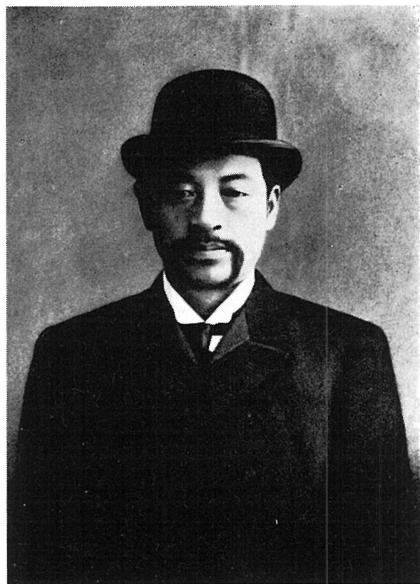


五無齋保科百助全集 全

五無斎肖像

五無斎遺言のうた

遺言のうたとて 五無斎花押
我死なむ佐久の山部へ送る遍志
屋以てなりとも生マでなりとも



辞世のうたとて

五無齋

花押

酒

五無齋

遊つくりと志やばにぐらして

さておいで わしハ一トあ志

チヨツトお先へ

(真田町本原 横沢理氏藏)

飲むからに

どぶの中へも

飛び込めば

むべ水酉を

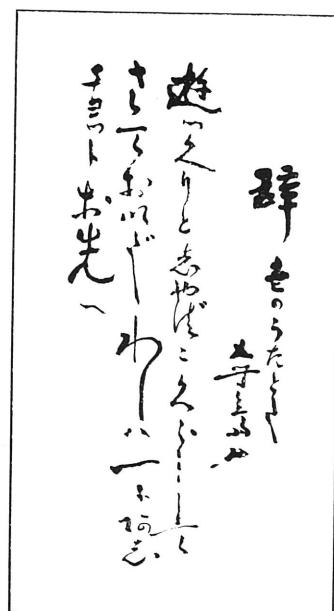
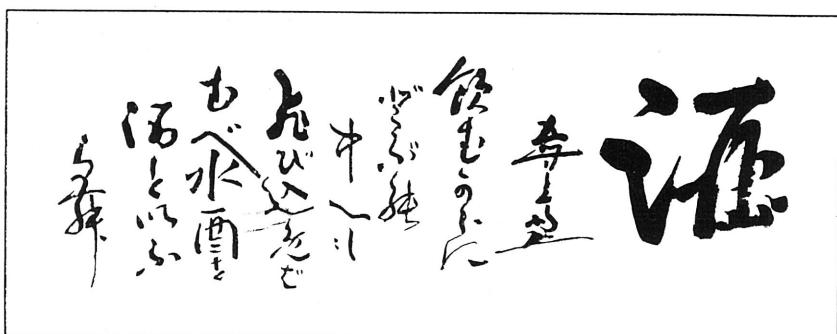
酒といふ

ら舞

(横沢理氏藏)

津金寺境内五無齋の碑

北佐久郡立科町大字山部



復刻によせて

今日の生活をみると、あふれる物質と情報に、人間の欲望ばかりが刺激されて、欲求不満に悩んでいる。豊かさのなかでかえつて魂が飢えている。灯が明るくなればなるほど影も濃さを増すのが常である。

青少年の非行、家庭の崩壊、地域の教育力の低下等、暗い影はきわめて日常的な次元で重苦しくおおいかぶさつしている。

このようななかにあって、最近生きがいを求め、生きる意味を知ろうとしはじめた多くの事実がある。そのひとつが、郷土の先覚者、保科五無斎を求める人々の心である。序文に書かれているように、半世紀前に五無斎によつて手がけられていた諸問題が実は、今日教育の現場においても問題になっている事柄である。

この時に、彼の教育精神と実践力に糧を求めて、五無斎保科百助全集・五無斎保科百助評伝の復刻の要望が強くあがつたのもむりからぬことである。このため佐久教育会は、二十五周年記念事業の一環として、復刻版を刊行することにした。

本書を出版するにあたつては、本会の五無斎委員会が中心となり、現在表記上問題と思われる箇所等を、関係機関に相談し指導をうけたり、時には、五無斎を語る諸先輩に意見を請いながらあたためてきたのである。

このようなかなにあつて、常に協力をいただいた信濃教育会・NBS・関係各位等の力も大きく、改めて心から感謝を申しあげる次第です。

諺に「群鶴の一鶴」ということがある。名字・帶刀を許された名門の生れであり、学識をほしいままにしながら、孤弱を憐み、窮乏を援くるのに決して躊躇しなかつたという。津金寺境内に建立されている大記念碑をみるにつけ、本書が信州教育進展につながることを願つてやまない。

昭和六十年十一月

佐久教育会長　南沢　昭二

序文

五無斎保科百助先生の研究に、本格的にとりくんだのは昭和三十六年である。ちょうどその年は先生の五十年忌に当たり、慰靈法要を嘗み遺墨展も併わせ行つた。以来研究を続けて遺墨、遺影、論説、日記、狂歌、書簡等に関する資料は殆んど余す所なく集めることができたと思う。この度これらを一巻におさめて全集として出版することにした。

この書を出版する決意をしたのは、根強い人間愛に徹しその信念に生きた先生の生涯が、みずから欲望榮達は意中になく、官権をはばからず世の風評に耳を貸すことなく、時には社会的慣習も破って、良心の命ずるまま徹底した自由の境地で、常に独創的に教育のために終始されたことを知り、そのすばぬけた偉さに打たれたためである。先生の郷里にあってこの大先覚を知る機会を与えられて居るわれわれは、またこの先生を今の世に広く紹介する義務あることも感じた。幸いにして多数の賛同者の協力を得て順調に計画の進んだことは、まことにありがたく喜びにたえない。

出版にあたって五無斎先生をよく知られる信濃教育会長松岡弘、小原福治、荒木茂平、小林直衛の諸先生方から懇切な御助力をいただいたことに厚く御礼を申し上げ、研究から出版まで中心となつて御尽力下さった前北佐久教育会長今井誠太郎先生をはじめ研究委員各位の長期にわたる御努力と、貴重な資料を提供して下さった多くの方々の御厚意に心から敬意を表し、感謝申し上げる次第である。

昭和三十九年二月

佐久教育会長 青木盛四郎

例　　言

一 体裁を六編に分けたのは編集者の仕組みによるのであり、各編の文の配列は年月順を本体としたが、例外もある。

一 漢字仮名遣いは原文に従つたが、漢字には略字を使用した所がある。擔當一担当の如きその例である。

一 句読点は原文を重んじたが、所々添加して読みやすいようにした。

一 二段組のところは頁数の関係であつて特別内容的意味はない。

一 新聞より採録した場合総フリ仮名つぎのものはフリ仮名を除去した。

一 資料として明確を計るため各文末にその原拠と年月日を明記した。

一 必要の場には編註をつけた。

論評編

五無齋保科百助全集 目次

一 五無齋百話 101

一一 時事短評 104
一一 諸論評 109

序例
文 佐久教育会長 青木盛四郎 1
地学編

言 1
一 通俗滑稽信州地質学の話 1
二 岩石鉱物新案教授法 1
三 おもちや用標本賣出し規則 1
四 おもちや用標本説明 1
五 地学標本売出しに関する説明書 1
六 訓令教第一号第三号及び教育総本山訓令 1
七 信州産岩石鉱物標本説明書 1
八 石器時代の遺跡湖中の山嶽ソ子に関する憶説 1
九 売上帳の序 1
十 長野県小県郡鉱物標本目録 1
十一 manual of mineralogy and Petrography の 1
一二 いぶ心の五無齋手記 1

小学生の修学旅行にひゞて (一五六) 風間冠峯氏の講習について (一五六)
土屋政吉の逸事 (一七〇) 図書館創立記見 (一七八) 県立感化院の位置につ
いて (一七八) 長野中学生運動について (一九一) 小平竜谷を弔ふ長歌並びに
短歌 (一九二) 師範学校の成行如何 (一九五) 俟く候ふ (二九七) 五無齋
答へて曰ばく (二九七) 県府舎の位置について (一九八) 県府舎敷地問題につ
いて (二〇一) 教育宗総本山辞令 (二〇五) 師範学校卒業式式上 (二一一) 当
世百迷惑 (二一四) 与土屋良選君書 (二一六) 譲告 (二一八) 雨敬が銅像と植
林 (二二八) 軽井沢附近の土地利用論 (二二一) 乍忌から書面御願申一札之事
(二二二) 職人根生 (二二四) 補欠選舉にひゞて (二二七) 師範三校案 (二二〇)
県会議員君へ (二二二) 全国漫遊意書 (二二四) 銅像 (二二三) 鏡に対
して我顔を見よ (二四一) 慨世危言 (二四二) 長野根生を打破すべし (二四四)
学務官吏の榮軀 (二四八) 学製改革と世論 (二四九) 文界廢清論 (二五〇) 惑
夢を見る記 (二五二) 通俗新案国語教授法一名ニギリギン式教授法第1編
(二五四) 初雷 (二五五) 小学生の修学旅行に付て (二五六) 軽井沢男爵一行
歓迎会席上 (二五七) 金の使い方 (二五九) 味噌汁論 (二六〇) 師範三校説と
移居論に就いて (二六一)

四 広 告 類 141
日記編

一 売上帳 1
一一 巡業日記 1
一二 いぶ心の五無齋手記 1

三 病床日記 四四

四 長野県地学標本採集旅行記 四一

五 劍燒岳登山文 五〇

六 三たび東上日誌 五三

七 プラツキ日誌 五五

八 坪井博士に隨行して野尻湖に遊ぶ 五四

九 上水内郡産岩石鉱物採集旅行記 五七

十 機業日誌並視察報告書 五六

狂歌編 五九

一 よいかゝをほしな百首け 五一

書簡編 五五

一 書簡類 五七

雜編 五七

一 信濃漫遊旅費寄附人名簿 五六

二 保科塾寄附人名簿 五六

三 各種標本売上帳 五六

四 五無齋葬儀諸事記 五六

五 五無齋保科百助香奠受納簿 五〇

五 五無齋保科百助香奠受納簿 五〇

六 五無齋善後策相談会誌 五一

七 保科五無齋記念碑建設趣意書 五二

八 故保科五無齋建碑事務報告 五三

九 よいかゝをほしな百首け 五四

十 保科五無齋君記念碑建設趣意書 五五

十一 津金寺境内五無齋記念碑について 五六

十二 五無齋五十年祭式典並遺品・遺墨展覧会出品目録 五六

年譜 五六

あとがき 編集主任 今井誠太郎 五六